

福岡県 Fukuoka Pref. (筑前 Chikuzen/ 筑後 Chikugo/豊前 Buzen)



大牟田市上空（航空機内）から

福岡県では、南部の筑後地方の各地から、筑後平野越しに“[北面～北東面の雲仙岳](#)”が眺望できます。空気が非常に澄んでいれば、遠くは西部の雷山（糸島市）や脊振（せぶり）山（福岡市）、中部の宝満山（太宰府市・筑紫野市）、北部の福智山（直方市・福智町・北九州市）、東部の英彦（ひこ）山（添田町）からも眺望できます。筑後地方の大牟田市や柳川市、大川市、みやま市などでは、[雲仙岳](#)が小中学校の校歌にも登場し、古くから地域で親しまれてきたことが分かります。

久留米市にそびえる高良（こうら）山の山頂付近には、かつての筑後国の一の宮（地域で最も重要視された神社）であった高良大社があり、その第五十世座主・寂源が編纂した“高良山十景詩歌”（江戸前期）の中では、高良山から[雲仙岳](#)が眺望できる様子が漢詩に歌われています。また、江戸後期に九州を旅した多才な知識人・頼山陽（漢学者、歴史・文学・美術など多方面で活躍）は、佐賀城下から長崎へ向かう道中、高良山と[雲仙岳](#)を対比させて眺め、両山を夫婦に見立てて漢詩に歌っています。

戦国時代、筑後地方は肥前佐賀の龍造寺氏に攻め込まれ、支配下に入っていましたが、龍造寺氏が[雲仙岳そびえる島原半島](#)の領主・有馬氏を討つべく半島へ攻め込んだ際、援軍要請を受けた薩摩領主の島津氏と有馬氏の連合軍と[雲仙岳東麓](#)で戦って敗れ、以後、筑後地方での支配力も失っていったという歴史があります。江戸時代に入って、筑後地方には柳河藩が成立しました（後に久留米藩・三池藩が成立）が、柳河藩の牧場となっていた御牧山からは、[雲仙岳](#)を眺めることができます。江戸初期に有名な“島原・天草一揆”が発生した際には、幕府の要請を受けてこれら三藩や福岡藩・小倉藩（その他、九州諸藩）も幕府軍に参加し、[雲仙岳南麓](#)の原城で一揆軍と戦いました。一揆の終結後は、島原領内に無人地帯が生じたため、幕府の命令に従い、各藩内の領民の一部を島原へ入植させました。

筑後平野と[雲仙岳](#)の間には、全国一の規模を誇る有明海の干潟が広がっていますが、その泥は、かつての[阿蘇山](#)の大噴火による噴出物を筑後川・矢部川などが日々流し込んでいもので、それが外洋に流れ出さないのは、[雲仙岳そびえる島原半島](#)が有明海の水の出入口を狭めているためです。また、御牧山や飛形山、御前岳や釈迦岳、脊振山や英彦山からは、天気が良ければ[阿蘇山](#)も眺望でき、[阿蘇山](#)と[雲仙岳](#)の間の歴史的な[大三角形](#)（※阿蘇地域のページ参照）を視覚的にイメージすることも可能です。

上記のようなストーリーを楽しめる散策道として、九州全県をつないで一周するトレイル“九州自然歩道”があり、県内の山岳地帯を東西に横断するルート（基山～大平山）と南北に縦断するルート（英彦山～皿倉山）があります。トレイルは、空気が澄んでいれば[雲仙岳](#)を眺望できる基山や宝満山、馬見山、英彦山、福智山などを通して、遥か[雲仙岳](#)まで続いています。

[雲仙岳](#)の様々な表情を探しながら、福岡県を旅してみませんか？

●福岡県の観光情報はこちら ⇒ 福岡県観光連盟 <http://www.crossroadfukuoka.jp/>